

東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所  
2018年度 パフォーマンス向上会議情報(2018年7月19日(木)分)

◆不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

2018年7月19日のパフォーマンス向上会議で審議された不適合は、下記のとおりです。

番号	不適合内容	グレード
1	【1号機ミスト散水設備の空気圧縮機不具合について】 1号機ミスト散水設備において空気圧縮機(A-1, A-2)が、空気の圧縮運転ができない状態であることを確認。逆止弁の空気漏れが原因と推定。至急、点検を行う。	G II
2	【中型バスの燃料タンク給油口からの燃料油(軽油)漏れについて】 入退域管理棟周辺に停車していた中型バスの燃料タンク給油口から燃料油が漏れていることを確認。燃料タンクに燃料油を満タン以上で駐車していたことで、気温の上昇により燃料油が膨張し漏れたと推定。今後、給油の際には、自動給油で止まった後の追加補充をしない。	G II
3	【雑固体廃棄物焼却設備の廃油供給ポンプA不具合について】 雑固体廃棄物焼却設備において廃油供給ポンプAの点検時に、電動機が起動しなかった。原因は、電動機のケーブルが端子箱と蓋に挟まれて、地絡状態であったと推定。今後、修理を実施。	G III
4	【サブドレン(A)サンプルタンクCの攪拌入口弁の動作不良について】 サブドレン(A)サンプルタンクCの攪拌操作時に攪拌入口弁が動作しないことを確認。予備側に切り替えし、攪拌操作を実施。	G III
5	【既設多核種除去設備サンプルタンク水位の免震重要棟での監視不能について】 既設多核種除去設備(A)運転中に「水処理室中操PC監視伝送異常」警報が発生しサンプルタンク水位の免震重要棟での監視不能となった。 既設多核種除去設備(A)を「運転」から「循環待機」に切り替えを実施。 伝送装置の電源「入」「切」を実施し、監視不能から正常復帰。	G III